

日本なし「加賀しずく」の市場デビューを支援

中央普及支援センター

平成29年8月、石川県が16年をかけて開発した日本なし「加賀しずく」が金沢市中央卸売市場でデビューしました。日本なしは、本県の果樹の品目のうち最も多く栽培されていますが、産地縮小が続いています。この現状を打破するため、切り札として登場したのが「加賀しずく」です。

開発当初、産地や流通の関係者からは、「外観がデコボコ」、「果肉が軟らかくシャリ感がない」など従来の日本なしと特徴が異なるため、心配する声が聞かれましたが、消費者の方に試食していただくと、「なめらかな甘さが美味しい」、「外観のデコボコは気にならない」など、これまでにない新しい食感が高く評価され、平成25年度、この品種の本格的な栽培が始まりました。

当時はまだ、加賀しずくの特性に応じたきめ細かい栽培技術が確立していなかったため、当センターでは、農林総合事務所及び農業試験場の担当で生産拡大プロジェクトチームを結成し、産地での栽培実証、栽培マニュアルの作成などを行い、本品種の速やかな普及を図りました。

さらに、平成28年度からは、商品規格の決定、集出荷体制の整備や市場デビューに向けたPR活動への支援も開始しました。出荷・販促資材についても、女性生産者の意見を聞きながら、白地の出荷箱や果実を包むハンカチーフなど、これまでにないデザインのものを採用し、可愛らしいと高評価を得ました。



白地に可愛らしい梨のイラストが入った専用出荷箱

このような一連の取り組みが実を結び、平成29年度の出荷量は目標の5トンを超え、平均卸売価格は通常の日本なしの2倍以上と非常に高い評価を受け、上々のデビューとなりました。

一方、加賀しずくは高い糖度基準を設定しており、本年度生産された果実のうち、約3割がこの品質基準に達しませんでした。加賀しずくのブランド化を図るために、今後産地が一丸となり、品質基準の達成を目指します。



合同現地巡回で果実の成り具合を点検



念願の市場デビュー（平成29年8月25日）

問い合わせ先：農林総合研究センター農業試験場
中央普及支援センター
(076-257-9150)